サブスペシヤルティ領域機構専門医認定試験指針

試験の目的

この認定試験は、専攻医の専門研修における達成度を判定することを主たる目的とする。

各サブスペシヤルティ領域専門医検討委員会（以降、専門医検討委員会）の役割

- 試験問題の作成
- 受験料の決定、受験案内の作成
- 出願の受付と受験票等の送付
- 実施等に関する各種マニュアルの作成
- 受験者・試験監督者への実施方法等の周知
- 試験会場の選定、試験監督者の派遣
- 答案の採点・集計

受験資格

- 原則としてサブスペ領域において認定された専門研修施設での専門研修カリキュラムの研修修了者とする
 - 基本領域の機構専門医資格（移行期間は学会専門医資格を含む）を取得済みである
- 研修修了前に実施する場合は、以下の条件をすべて満たすこと
 - 基本領域の機構専門医資格（移行期間は学会専門医資格を含む）を取得済みである
 - サブスペ領域の研修（連動研修領域は連動研修期間を含む）を開始してから2年以上であること
 - 研修修了が見込まれていること

試験会場および監督

- 試験会場は、各専門医検討委員会の指定する場所とする
- 試験監督者および試験監督補助者については、各専門医検討委員会が選出する

各専門医検討委員会から日本専門医機構への報告・提出資料

各専門医検討委員会における一次審査終了後、下記の指定書類にて認定試験実施報告、一次審査終了報告を提出する。

- ・「専門医認定一次審査終了報告書」
- ・「専門医認定用保管リスト（サブスペシヤルティ領域）」

試験の実施要領

試験は下記の実施要領に準拠しつつ、各専門医検討委員会で定めた実施要領も可とする。

- 試験の実施方法は下記の何れかであること
 - ▶ 各専門医検討委員会が選定する試験会場での筆記試験、面接試験
 - ▶ 各地域のテストセンターでの CBT 試験、面接試験
 - ◇ 筆記試験、CBT 試験については、自宅でのリモート受験は認めないことが望ましい。面接試験については、各専門医検討委員会の判断とするが、透明性、公平性のある試験を実施すること。
- 各専門医検討委員会は各会場に試験監督者を派遣すること
- 試験日時：専門医検討委員会毎に原則同日同時刻の実施とすること
同日同時刻開催をしない場合は、複数問題を作成すること

試験形式

試験は下記の形式に準拠しつつ、各専門医検討委員会で定めた形式も可とする。

ただし、統一した試験問題として、基本領域ごとの選択問題は原則として認めない。

- 1) マークシート形式
 - ・ 5 択問題 100 問以上に相当する問題数
 - ・ 回答時間：90 分以上
- 2) マークシート・記述併用形式
 - ・ マークシートと記述を合わせて、5 択問題 100 問以上に相当する問題数
 - ・ 回答時間：90 分以上
- 3) 面接・口頭・実地試験等
 - ・ 実施することが望ましい*
 - ・ 1), 2)の試験形式と適宜組み合わせて行う
 - *実施しない場合は、専門研修プログラム・カリキュラムにおいて倫理観と医療のプロフェッショナリズム、特に他職種からの評価が到達目標に達していることを確認し、医師としての適性に問題がないことを評価する。

再試験

- 研修修了から受験までの猶予期間
研修修了から 5 年以内までの受験が可能である。
- 面接・口頭・実地試験等、試験項目・科目が複数ある場合の再試験の項目、科目の取り扱いは、各専門医検討委員会の判断とするが、透明性、公平性のある再試験を実施すること。

合格基準

合格基準は下記を目安としつつ、統計手法を用いるなど各専門医検討委員会で設定した基準も可とする。

- 1) マークシート形式
 - ・正答率：60%以上
- 2) マークシート・記述併用形式
 - ・合格点：60 点以上（満点を 100 点とした場合）
- 3) 面接・口頭・実地試験等
 - ・知識・実技等を評価する場合
合格点：60 点以上（満点を 100 点とした場合）
 - ・倫理的配慮など医師としての適性を評価する場合
合格点：複数の試験官の評価で合否を判定する

不正受験者の措置

認定試験に関して不正の行為があった場合には、当該不正行為に関係ある者についてその受験を停止させ、その試験を無効とする。

特定の理由（国内外への研究留学、海外での勤務、病气療養、妊娠、出産、育児、介護、災害被災、公的機関への出向、地域枠等の従事要件、その他日本専門医機構が特定の理由と認めるもの）のために認定試験を受験できない場合の受験期間

専門研修修了後から機構専門医認定試験を受験するまでの有効期限は、原則として 5 年間とする。

すなわち、専門研修を修了した専攻医は原則として 5 年以内に機構専門医認定試験に合格しなければならない。やむを得ない事情のため 5 年以内の試験受験が困難な場合は、受験時期延期申請書を提出し、専門医検討委員会と本機構の専門医認定・更新委員会の審査と承認を経て有効期限を 1 年単位で延長することができる。

各専門医検討委員会から日本専門医機構への報告・提出資料（受験時期延期申請）

受験者が該当の専門医検討委員会へ「受験時期延期申請書」を提出し、各専門医検討委員会における一次審査終了後、下記の指定書類にて判定結果を日本専門医機構へ提出する。受験者の不利益にならないよう領域毎に申請書類の提出期限等を設定すること。

- ・「受験時期延期申請書」
- ・「受験時期延期申請者リスト」

なお、診断書や留学証明等の提出については領域学会の判断とするが、申請理由の妥当性を確認の上、公正な一次審査を行うこと。

以 上

2022年3月18日 理事会承認

2025年9月19日 一部改訂